



週)報

2012~2013年度))) R I会長)田)中)作)次)
『奉)仕)を)通)じ)て)平)和)を』)
)))))))))第 2570 地区ガバナー)鈴)木)秀)憲)

国際ロータリー
第 2570 地区

狭山中央ロータリークラブ

〔例会場〕狭山東武サロン〒350-1305) 狭山市入間川 3-6-14)TEL)04-2954-2511
〔事務所〕〒350-1305)狭山市入間川 1 -24-48)TEL)04-2952-2277)FAX)04-2952-2366
<http://www1.s-cat.ne.jp/schuohrc/E> - mail:schuohrc@p1.s-cat.ne.jp
会長)若松泰誼) 会長エレクト)栗原憲司))副会長)山室博美))幹事)稲見)淳

【第 3 グループ内の例会日】 狭山(金)、新狭山(月)、入間(木)、入間南(火)、飯能(水)、日高(火)、狭山中央(火)
所沢(火)、新所沢(月)、所沢西(水)、所沢東(木)、所沢中央(月)

第 934 回(2 月 12 日)例会の記録

点 鐘 若松泰誼会長
合 唱 四つのテスト
第 2 副 S A A 東君、古谷君
ビジター 狭山 R C 会長以下 11 名
新狭山 R C 会長以下 15 名
卓話講師 宮城県女川町商工会
経営指導員副参事 青山貴博様

出席報告

会員数	出席者数	出席率	前回修正
30 名	28 名	92.59%	82.14%

会長の時間

若松会長

「女川町 青山様をお迎えして」



皆さんこんにちは、本日は狭山 R . C の皆さん、新狭山 R . C の皆さんをお迎えしましたの例会と言う事になりました。

合同例会と言う事では無く、メーキャップによる参加と言う事になりましたが、両クラブの皆様、本日はようこそいらっしゃいました。

今回の合同の集まりに関しましては伏線がございまして、第 2570 地区第 3 グループ井花直前ガバナー補佐から前年度最後の会長、幹事(新・旧)お別れ会の席でお願いがありました。それは、年の初めの 3 会合同新年会の他に、皆さんが集まる機会を企画して欲しいというリクエストでございました。

新年度になりましてから、市内 3 クラブの会長と何度か話し合う機会がございまして「どんな形でもいいから 1 回実施しましょうか」と言う事で、そして今回の例会となった訳でございます。いざ、実施しようとなりますと中々良いチャンスが無く今日まで延ばし延ばしになりましたが、このような企画はコミュニケーションを広げる意味で大変有意義な場として考えましてこれをスタートにして今後とも又企画して行きたいと考えているところでございます。

我々のクラブでは一昨年、東北地方の被災者の皆様へ何かお手伝いは出来ないかという事で会員の皆様のご協力をいただき寄附をさせて頂きました。

効果の確認が取れる所と言う事で、宮城県女川町の方へ寄附をさせて頂きました。

そして昨年の秋に復興状況を見る事と励ます事を目的としまして女川町まで会員の皆さんと家族同伴で行って参りました。その折に本日卓話のゲストとしてお見えになっっています青山様のお話を現地でお聞きしました。その話は現実の生々しさというか、実際に起きた事実の迫りに圧倒されました。青山様自身が九死に一生を得られた訳でしてその後、家族との再会とか胸を打つ話ばかりでございます。

我々もその話をお聞きして我々だけではなく、その時に出席出来なかった方や、他クラブの皆様にも是非お聞きいただけたらと言うのが本日の主旨でございます。

我々のクラブでもお話を聞いてから被災地の事を忘れない様にしようというのは勿論のこと、支援を少しでも続ける事が出来たらと言う事で昨年のフリーマーケットの売上金等を些少でございますが女川町の方へ贈呈させて頂こうと考えておりまして、この後贈呈式を行わせて頂きたいと思っております。

本日はどうか青山様のお話をゆっくりお聞きに頂き、震災が風化しない為の一助になる事を皆様にご協力をよろしく願いましてご挨拶とさせていただきます。

日常、当たり前なのが突然途絶えたとしたら皆様は何を真っ先に思いますか？その思った事を大切にしてください。ありがとうございました。



「外来卓話」・・・・・・・・

「3・14 東日本大震災を経験して」

宮城県女川町商工会
経営指導員副参事 青山貴博様



幹事報告

稲見幹事

今日は狭山 RC の皆様、新狭山 RC の皆様、大勢でお出で頂きましてありがとうございます。

今日は講師の青山さんを迎えまして、女川の現状と被災した時の状況をお話頂けると思います。

私共、先般女川に視察に行っていました。女川は海面から 5m 程の所に国道を作るという計画になっておりまして、その 5m に達するところにポールが立ってありました。しかし私が見た限りではまだ土も盛られておりませんし、まだまだこれからが復興だということを思い知らされました。しかし報道で聞きますと、女川は東北では一番進捗率が図られている町だそうです。女川があの状況ですので、今如何に東北の復興が遅れているかということを目の当たりに致しました。是非今日の青山さんのお話を聞いて頂き、現状の東北を知って頂ければ、我々が忘れず、復興が成されるまで一生懸命応援するという心が大切だということがわかって思っております。

第 934 会例会のの会務報告は特別ありません。

例会変更が入間 RC、

受贈会報が入間南 RC、飯能 RC より参っております。

震災前



震災後



昨日から狭山に訪れまして、若松会長を始め多くの皆様にご歓待をして頂きました。震災からもう 2 年になりますが、あんなに楽しい時間を過ごしたのは本当に久しぶりでした。感動をし、涙がでました。本当に感謝しきれないと思っております。

今日は 3 ローターの多くの皆様に集まって頂き、楽しみにしている等という言葉が聞くと、本当に来てよかったと、涙が出ます。

今、多くの義援金、支援金を頂戴いたしました。そして何よりも震災直後から狭山中央 RC さんに於かれましては、女川町に縁もあったということで、震災後 2 回訪れて頂いております。今お話にもありましたように、女川町は被災地の中では復興はやや早いのではないかということが言われておりました。確かにそうでした、女川町には原発もあり、原発マネーもある関係上、単独行政、平成の大合併も辺りの近隣市町とはせず、単独で行こうという中で進んでまいりましたので、周りの市町村から見れば、女川町は自分達ばかり合併しないではと言われておりましたが、この震災を受け、それが幸い致しました。単独行政なので、直接県や国に物を申すことができるのです。コンパクトな中で小回りが利くものですから、他の大きく合併した市町村よりは歩みが多少早いのかと思います。

先ほど自民党青年局長・小泉さんのお話がありましたが、女川町長・須田は実は私の同級生でして、昨年 11 月に町長に就任致しました。小泉さんの前の青年局長ということで、小泉さんは震災直後から頻りに、多くの若手議員を引き連れて女川に来られ、我々の話も本当に親身に聞いて頂き、色々な被災地の問題について、それ以外も視ているのでしょが、女川も視て頂き、国会でも話して頂いて、今の法案や支援策に繋がってきております。これも一例ですが、昨日狭山にきて皆様と話をしながらいざ掘り下げていくと、意外と東北に縁があったり、直接女川に縁があったりと、6

時間かけて来るこんなに遠く離れた所でも、意外と人は繋がるところは繋がるのだと、若松会長とも不思議な縁が沢山あるというお話をさせて頂きました。狭山の皆様の熱い気持ちと応援して頂いている気持ち、本当に何とも言えず、感謝を申し上げる次第です。

女川ばかりではなく、色々な被災地を皆様視て頂き、応援して頂いていると思いますので、被災地を代表して、御礼申し上げます。

それでは、東日本大震災を経験してというお話をさせて頂きたいと思います。

...映像を見て...

津波は最初から、ものすごい勢いでした。津波とは緩やかに来るのかと思っておりましたが、大間違いで、一瞬で町を飲み込んでいきました。タイヤが半分くらい飲み込まれると、車等は簡単に流されていきます。あれよあれよという間に、町の通路という通路、隙間という隙間に水が流れていきました。2m 上がらない木造住宅は簡単に流されていきました。津波は押すのも怖いですが、引く方が怖かったです。ありとあらゆるものを巻き込んで、引いていきました。

女川は、飛沫(水しぶき)の一番飛んだ距離が 43m と言われており、被災地では最大、最強レベルです。そして私の事務所、商工会は 4 階建ての事務所でしたが、その屋上の給水塔(6m ほどの高さ)に上ってびったり足元ぐらゐまで追い詰められましたので、水の高さで言いますと 20m 位は来ているといった感じです。

震災前の女川町は、土地の無い町、町の面積の約 80%は森林でしたので、開拓しては埋めてということを繰り返した、埋め立て地だそうです。小さい町なのに、地価は高く、建物が密集した町でしたが、それがあの一撃により失われました。茶色い建物「マリナル女川」は、女川の観光複合施設でして、ここで月に 1 度イベントを開き、多くの皆さんが訪れ、女川の観光の中心になっておりました。しかし震災後は、アスファルトは剥がされ道路は海に流されました。

女川の震災前、3 月 11 日現在の人口というのは、10,014 人おりました。2035 年には 6,000 人になる町だと、宮城の地銀の中では最高の七十七銀行の統計調査が出た辺りでした。6,000 人になってしまったら商業も経済も成り立たない、どうしようかと騒いで、勉強会を作って始めた年辺りでした。震災によって 832 名(人口の 8.4%)、約 1 割の方が尊い犠牲になってしまいました。行方不明者の人数は殆ど一桁台になってきておりましたが、親族にしてみれば遺体があがらないので、亡くなっているのは分かっているけれども、見つかるまで不明だという立場の方も若干おられます。

震災前の家屋の数は、住んでいる・住んでいないは別として約 6,500 戸ありましたが、それが津波により 73%、約 4,800 戸が流され、無くなりました。仮設住宅に於きましては、約 30 の地区に約 1,300 戸建てておりますが、それでも足りず、石巻にアパートを借りる、仙台の娘、息子、親族を頼って出ていくといったことがあります。

産業の状況ですが、女川町の基幹産業は水産業で、獲る漁業、加工する加工業といったところです。獲る漁業、女川町は銀ザケの養殖の日本一を誇っており、さらにホタテ・ワカメ・カキ・ホヤ等が豊富に獲れ、そして多く出荷しておりました。漁業者の皆さんは、震災前は約 1,300 艘の船を持っていたそうですが、それが震災により、一生懸命逃すように沖に逃げたのでしょうが、やはり甚大な津波だったので、通説が通用せず、9 割ほどの船が無くなったそうです。震災直後は約 130 艘まで減りましたが、今は色々な支援によって 500 艘くらいまでは回復しているであろうということです。高齢の方が多く漁業をしておりましたので、この震災と共に家も、船も、養殖施設も無くなったので辞めようという人も多くありますが、ここでも頑張ろうという若者がおりますので、こうした人たちに期待をしているところです。

水産加工会社も大小で 50 位ありましたが、これも一撃の下なくなりまして、現在は 5 社程度しかありません。この加工屋というものが女川では一番経済を回し、雇用を生んできたところでありました。ここで働く女性たちが一生懸命働き、夕飯の支度をするために商店街で買い物をするということで、お互い循環できていたわけですが、これが何もなくなりましたので、雇用も生まず、経済も回らずといった状態になりました。そしてもう一つ、女川には女川原発というものがありますが、実はこちらも大きな雇用を生み、経済も生むところでした。原発の職員だけで、下請けも含めると 2,000 人位おられます。そういった所にもものを卸したり、毎年 1 年動かすと 1 年原発を止めますので、そこに多くの定期点検者ということで、外部の皆さんがたくさん訪れ、女川でお金を使っていくという状況でした。しかし今は止まっているので、この定期検査もなく、原発も回らない、要はここでは経済も回っていかないということです。原発には皆さん色々な意見があるかと思いますが、立地町にすると、まず経済のことを考えると、動いてもらった方が有り難いという話があります。

小売につきまして、従前、駅前通り商店街、海岸通り商店街、マリナル商店街等 6 つ商店街があり、約 170 店舗が集まっておりましたが、これが一撃で一瞬にして失われました。かろうじて津波を免れたのが、女川の入り口にあるセブンイレブンさん、こちら我々商工会の青年部長経験者がやっているお店ですが、こちらだけでした。海から約 4km 離れた所、津波を免れた地区にあるコンビニですが、国道を遡上してこの 4km 離れたコン

ビニまで水は実際に行っており、1m位浸水しております。しかし食べ物や流されなかったため、次の日から営業ができました。本人たちは、電気も止まっているしどうしようもないと言っていたのですが、私もオーナーと会い、残っている商品売って欲しいと話しました。そしてそんなことを頼む以前に群衆が集まり、開けると大騒ぎになっておりました。皆全て流され、かろうじて生きているという状態で、しかし財布だけは持って逃げますので多少のお金は持っており、セブンイレブンに密集をしておりました。暴動が起きて盗み起きるのではないかと懸念致しましたので、オーナーは電卓だけで9時間、すごい人数を相手に営業を致しました。しかしそれでも、盗みはあるのです。夜、ガラスを全て割られ、せっかく頑張っ商品を出したのに多少残っているものを目掛けて、悪い人がいるのです。

先ほどもお話しましたが、女川とは水産加工業がメインで中国人研修生もかなり多く入っております。全てとは言いませんが、やはり中には悪い人が日本人も含めておまして、徒党を組んで行ったようです。オーナーは私に、売れるものは売って商品がほとんどない中だったので、ガラスは割られたけれど、結果オーライだ、火を点けられないだけよかったと言っておりました。次の日に営業できたのはこのセブンイレブン1軒でしたが、今は皆さんからの色々な支援があり、仮設商店街もある程度充実致しまして、約70店舗、(生き残った所と仮設商店街60店舗)がありまして、小売りが動いております。

そして建設・建築は反比例するようにバブルです。震災特需が訪れております。特に建設業、瓦礫の撤去等を行っている土建屋については、本当に納税2億円等となっており、今まで2億円の売り上げもなかったのに、4、5千万円しかなかったのにといった事業所でも、納税で2~3億円という状況になっております。しかしこれで良いのだと思います。瓦礫撤去に多くの雇用が生まれておりますし、納税もしてもらっているということは、全てが壊滅的なので、やはり良い人たちが居なければ女川としては大変だということ、土地もだんだんと方向性も見えてきたので、建物も建つようになります、今度は建築も忙しくなると思いますので、職人が全く足りないという見通しも今立ってきております。

その中で商工会の主な活動です。大きい町には商工会議所、郡部は商工会といった感じの住み分けで動いておりますが、商工会議所法、商工会法という法律の下に、活動している団体でございます。平たく言えば商工業者の何でも屋ということで、言われれば大抵の事業に掛かる部分の事は、税務から労務等、様々なことを行っております。皆様の会社に置き換えて頂ければよいとおもいますが、震災直後は会員の安否の確認です。皆様で言えば顧客の状況確認となるかと思っております。本来ならば

何てことはない話なのですが、事務所は壊滅、パソコンもやられ、データ・会員名簿すら無くなってしまった中で、車も流され、多少生き残った車も、ガソリンが2か月半位まともになかった状態でしたので、また大地震、津波が来るだろう、その為だけに車は温存したいということで動かさませんでした。そのため車、ガソリンが無く、携帯も電気も通じないため、連絡手段が一切無い中、まさに足で、日が昇ると外に出て、帳面とボールペンを持ち避難所に行き、会員さんを見つければ、ああ良かったと、そして他の会員さんの情報を一人一人見つけては聞くということを繰り返し、約450人の会員でしたが、それを全て把握するのに7月位までかかりました。

私も震災の年、平成22年から女川に配属になりまして、全ての会員を網羅していた訳ではありませんでした。そんな中、名簿もなく、聞いては聞いては聞いてはといった口伝の中で、450人見つけることに3ヶ月、中には全滅してしまっている会もありまして、そのこの会員さんのみならず一族も皆逝ってしまったということで、その縁者まで探し当てるには、実際12月位までかかりました。もう亡くなっているのはわかるのですが、やはり会なので、脱退の意向等も全て調査しなければならず、約1年かけて皆発見致しました。本当に辛かったです。

次に労災保険ですが、2時46分の地震、事業主は「逃げろ、帰れ」と言い、従業員は逃げ、帰ります。そして3時26分頃、40分後くらいに津波が訪れたのですが、大体皆逃げているのだと思いますが、家に帰って更に避難所に逃げる途中で亡くなったのか等という、そんな事実関係は正直な所わかりません。そのため労災保険、通勤災害ということで、100数十件、この請求を致しました。しかし国というのはやはり事実関係を調べるということで、そのため会員調査も必要だったのですが、本当に帰ったのか、帰る途中だったのかということ亡くなった方の縁者まで当たって聞きました。しかし縁者もそんなことはわからず、けれども国はわからないでは済まされなということでした。調べるだけ調べて、もう情報が無いので、事業主は帰れと言う命令をしたのだから、通勤災害で良いだろうということにし、最後の方は監督署では埒が明かず基準局まで行き、状況を説明し、通勤災害ということで多くの方が労災認定を受けました。

死亡共済金ですが、我々も団体なので色々な保険制度を持っていたり、後は国の制度で小規模企業共済等の手続き、そして火災保険、自動車保険等、これが5~6月に集中した事務でした。パソコンも電気もない中、しばらくこの作業を行っておりました。しかし5~6月にこうした手続きを出来る事業主、ご家族というのは皆、自分たちは幸せだと言いました。亡くなっているのに幸せ等ということはないのですが、何が幸せかと言いますと、彼

らには遺体が上がったということ、亡くなっている見つかったということです。見つかったので行政への届け出も出来き、除籍謄本も出せ、死亡診断書も出るということで、あの時期にこの手続きができるということは幸せだと泣きながら話しておりました。

そして「きぼうのかね商店街」ということで、仮設商店街ですが、これを建設致しました。これはロンドンに本部を置く「救世軍」というキリスト教団体さん（布教をするにも人道的支援をするにもやはり軍隊的組織といった形態を作って行うという考え方の皆さん）から、1億数千万円の援助を受けまして、木造店舗30店舗をまず商工会が単独で建設致しました。そして「中小機構」という国の中小企業庁の外郭団体がありますが、そこで仮設店舗20店舗を建設し、合わせて50店舗で「きぼうのかね商店街」という被災地では最大級の商店街を建設致しました。

また震災によって全てを失った同業者が立ち上がるために協同組合を作りました。協同組合はよくありますが、この場合の協同組合は異例中の異例で、本当は会社組織的な物なのですが、皆流され、建物を建てることも全くできない中なので、例えば行政で、避難所の為に小さいけれど食堂を作ったので誰か運営して欲しいと言っても、一個人一企業には貸さないのです。しかし組織的な違いなのでしょうか、会社にも個人にも貸さないということであっても、この協同組合には貸すのです。その為、にわかですけれどもこの協同組合、たった一年の間に3つ、さらには株式会社を4つ位作りました。一年の間にこんなに定款を作り、登記をしてと、非常に忙しかったです。

また、国・県の緊急雇用制度というものがあります。これは一人182,000円、国・県が出すので、津波で職を失った人を雇いなさいという制度です。我々の商工会は4人しか職員がおりませんが、取りまとめをする関係上、今商工会には臨時雇用だけで50名位おります。事務所にはおいてなく、作った協同組合等に皆はり付けて行っております。50人の給与計算等、この事務も本当に大変です。そしてあとは、国及び県の震災施策が色々出ておりますので、こうしたものの取りまとめと申請、その中でもグループ補助金というものがあり、被災地ではこれを巡って、本当に熾烈な交渉を行っております。130億円位の補助金を今頂戴して、この申請作業で今事務所は目も当てられないような状態です。このグループ補助金、どういうものかと言いますと、まずグループを組んで、こんな活動をするので、この活動、グループを認定して下さいと、国・県に申請を致します。国と県が本当に厳しい中良い活動をする、このグループを認定し、これによってこのグループ構成員に対して、掛かる経費、復旧なので、自分の店舗を、工場を戻すということで10億円かかるとすると、国が3/4、7億5千万円出し、あとの1/4は自己負担

という制度なのです。我々金融も扱いますが、震災以降金融の相談はありません。借りれば返さなければなりませんので、今皆こうした補助事業に全精力を向けて、事業者は躍起になっております。特にこのグループ補助金と言うものは、そうした制度なのです。そんなわけで皆血眼になっており、商工会、そして石巻の商工会議所さん辺りは、このために本当にとんでもない労力を使っております。

活動(2)ということで、地域を網羅したということで、「女川町復興連絡協議会」というのを作りました。これは当商工会長の高橋が商工会を預かってはおりますが、水産にも大きな影響力を持っておりますので、壊滅した女川町を見て、水産、商業、工業、行政、議員、住民だ等と言っている場合ではなく、こんなに何もなくなった所で、憂い者集まれと、ありとあらゆる人を集めて、震災の翌月4月19日、何も無い中、口伝だけで集まってもらい、立ち上げた会です。そこで何をするかと言いますと、本当に色々な立場からの皆さんの意見を聞き、私はそれを取りまとめ、行政等に具申します。こうしてどんどんお話していくのです。これを震災の年1年間続けまして、行政とするともう無視のできない団体になっておりました。何かあったら復興連絡協議会(FRK)の話を聞かないと、ということで、今は行政と本当に二人三脚で行っております。地域住民、民間代表、そして議員も巻き込んだということで、その議員の中には当時県議会委員、現町長となった須田も入ってもらいました。そして11月にこの県議を町長にということで、復興連絡協議会から押したということで、町長もだしたといった感じです。

当然復興連絡協議会で行っていることですが、頻繁な町行政への意見具申、後は青年部員、そのOB等で「コンテナ村商店街」という、5m×2.5mのコンテナを10個、海外から支援を受け並べ、店にしたものを建設致しました。皆さんから見るとちゃちなものかもしれませんが、震災直後の7月、4か月後にこの10個を置いて、商店が始まったのです。我々の青年部、熱い者が多いので、「採算なんかは良い。パンツ一枚、靴下一足買えない人々がいるのだ。我々がやらなければ」と、こうした思いから始まりました。被災した建設屋の青年部員の土地が、すっぱり流され何もなくなりましたので、広い所にコンテナ10個を置くだけです。しかしこれにも行政は待ったをかけて来るのです。建てるわけではなく、置くだけだから良いではないかと言いましたが、私たちが何かを置くと他も何かを置くからと止めてくれということなのです。1ヶ月ばかり、行政と喧嘩を致しました。そして何とか了諾をもらいオープンの日、テープカットを致しましたが、そこにはあんなに喧嘩をした行政がテープカットをしに来るのです。何なのかと思いましたが、この10個を置くだけでも涙を流しながら行ってきたわけです。今はこれが復興の象徴とい

うことで、色々な観光客の皆さんに来て頂いております。

そして新たな地域特産「女川カレー」というものも作りました。なぜ女川でカレーかといいますと、神奈川のボランティアさんが女川に炊き出しにみえられ、当時何もなかった我々に、温かいカレーは本当に有り難かったのです。皆が彼らに「ありがとう」「どうもね」「また来てね」と言いました。すると彼らはびっくりし、感動をしたのです。このカレーは、鎌倉にあるアナン株式会社さんというカレースパイスを扱う会社が、被災地の人に、年寄りでも子供でも辛くなく、消化にも良く、体の保温もする豆を主とした、被災地用に向けて作られたもので、これを炊き出ししてもらい、感謝を我々がしたことによって、それならばこれを女川の人に作ってもらい、1人でも2人でも雇用を生むようにということで商工会に話が来しました。私はとても良い話だと感謝し、一緒にやりましょうと、今始めております。これも多くの皆さんの協力があってできたもので、女川は何もなくなりましたので、やはり特産を生もうということで作り始めました。

今雇用1号が、アベミワという女性(30代)で、彼女は女川スタンプ会という商品券であったり、ポイントカードであったりと町内の商工行政の一役を担う所の女性だったのですが、商店街が全て無くなり、スタンプ会の存在価値が無くなってしまった為失職してしまいましたので、この女性を今代表にして、一生懸命頑張っています。

まだ建築条件等色々な制限がありまして、やる気があってもやれないといった状況なのですが、そんな中でも、少しずつ始まった皆さんのものを、我々が外に出ればお話ししながら、宣伝して歩いています。ただお話をして皆に知ってもらい、それで1人でも2人でも協力してもらえればといった感じです。

ご当地ヒーロー「リアスの戦士 イーガー」ですが、我々青年部の者が震災の年の夏、自分たちでご当地ヒーローを作り、地域の子供たち、地域の活性化に役立ちたいということで作りました。

これはNHK等でも全国区で流れましたので、ご存知の方もいるかもしれませんが、最初は地域の子供たちの為といったものでした。「リアスの戦士

イーガー」は商工会の4階建て中の3階、青年部室にいつも収めておりましたので、震災で流れてしまったと思っておりましたが、石巻にあるウェットスーツを作る「モビーテック」という世界でも有名な会社の社長さんが、このイーガーのファンでして、下地のウェアをウェットスーツで作ってくれるということで、3月の震災前に採寸で預けておりました。青年部員は震災でそれをすっかり忘れておまして、ある日そのモビーテックの社長さんが、イーガーを返すからとわざわざ女川まで来てくれました。青年部員は皆驚き、イーガーが帰ってきた、イーガーが生きていたと、

それを見て皆泣きました。青年部員は当然、家や店を流されております。そういった彼らが、イーガーが帰ってきたということは、これで泣いている子供たち、落ち込んでいる子供たちのためにやらなければと、自分たちも辛いのですが活動しております。それで今、ことあるごとに「イーガー」は登場しております。私も分刻みで忙しいのですが、その中の「ワルワル団」という、やられ役の一員に一応なっています。時間があればいくらでも彼らの活動にいくらでも協力したいと思っております。Youtube等でもご覧になれますので、時間があれば皆さん見てみて下さい。

そして、県外に向けた強力な販路拡大ということですが、今お話ししたカレーにしる、何にしる、町内の購買力というものは、もともと薄かったのですが、この震災でさらに壊滅的になっております。そのため、このような形で強力に外に売り、外貨を稼いでいかなければいけないということで、私は伝道師としてお話をさせて頂き、そして発送から何から、お手伝いできれば全て行っております。物は作れますが、正直人が雇えないので、商工会を窓口として行っております。しかし本当に外に売っていかなければ、経済が回らないという状況です。

県の連合会という我々のJOB団体があるのですが、そこから今人を1人借りています。これは県の連合会から言うようにと言われていたのですが、女川は助けがないと正直、回りませんでした。東北大学出身の優秀な男性に、私の片腕となって頂きもう2年、共に活動しております。寝食を共にし、家に泊まりこんで先ほどのグループ補助金の事など、深夜まで一緒にやってくれます。本当に有り難いです。家も家庭崩壊をしておりますが、彼も家庭崩壊をしまっているだろうと思うと、悪いなと思いますが、ただそこに生きたものの宿命としてやっていくしかありません。こうしたことも踏まえて、我々団体は、地域あつての商工会、会員あつての商工会ということですが、

地域があつてということは、商売が有る無しに関わらず住民がいなければなりません。人が住み、そこで活動をしてもらうことによって、そこから商業、工業が成り立っていくわけですが、実際住民の方がいなければ、商工会、商工会議所は存在価値がなくなり、必要なくなるのです。今私の仕事と言いますのは、商業、工業だけを見ている場合ではなく、地域に如何に人を住まわせるかということ、商工会、復興連絡協議会でのモットーですが「住み残る町」「住み戻る町」、今多くの皆さんが出て行っています。そして最後に「住み来たる町」、新たな皆さんが来てくれる町、それを今考えております。私も役場職員並みに、町の復興計画などに携わっておりますが、それもやはり定住をさせ、最終的には商業、工業を回して行こうと、そんな立場で活動しております。

女川だけではないかもしれませんが、被災地では

こんな活動をしておりますので、是非、一度視て頂けると良いと思います。

・・・写真説明・・・

「きぼうのかね商店街」

商工会で建設しましたが、お金は海外から、木材は宮崎県から、窓枠はアメリカから、設計は鎌倉、建てるのは女川の建設組合の皆さん等、有り難いのですが色々な支援が重なりすぎて、私一人で取りまとめたので、この調整が大変でした。色々な方の協力を頂き木造店舗ができ、今は木造店舗30店舗、国のプレハブ20店舗の計50店舗で被災地最大級の仮設商店街となります。地域の方、会員の方に遅い等と怒られながら、本当に神経をすり減らした話でした。



「復興連絡協議会（石破先生来所時）」

彼等は行政に行っても話を聞きますが、民間はどのように考えているのだという時に、復興連絡協議会に来て、我々の話を親身になって聞いてくれます。行政も民間の話をどこで聞けば良いかということになると、復興連絡協議会、商工会に行つてという話になるので、本当に有り難いです。国政の色々な施策にも女川案ということで出して頂いており、全てが要望通り叶うわけではありませんが、末端から上げていったものが法律の一つになってくれているということが有りがたいです。被災があったからこそ巡りあったご縁なのだと思います。



「コンテナ村商店街」

こんなコンテナを10個置くだけで、町と1ヶ月も喧嘩しなければならぬことは、どうかと思います。しかし当時はそれだけカオス状態であったということです。この10個を置くだけでも、町を挙げての大騒ぎです。今となつては笑い話になっております。



「リアスの戦士 イーガー」

イーガー、越前クラゲ 怪人・クララーゲ、そしてワルワル団という やられ役がありまして、コミカルな活動をして おりますので、是非応援をお願い致します。



「女川カレー」

是非宜しくお願い致します。私も一応取締役になっております。副職禁ずですが、どうしても立ち上げたもので、是非お願い致します。



震災時の状況をお話しさせていただきます。午後2時46分、本震、そして20分後、3時6分に大きな揺れが来ています。一連の中でもう有耶無耶などと皆さん言うておりますが、この2回目の方が揺れとしてはきつかったです。本当に立てませんでした。2時46分はなんとか立って、外まで走って出ることができたのですが、この3時6分のもは、丁度その日に確定申告の時期で税理士さんがお見えになって、座敷で打ち合わせをしていたのですが、すごい揺れで、税理士さんと私はぺたりとなったまま立てませんでした。よく地震体験カーで女性キャスターが「立てない」と言いますが、そんなことがあるのかと思っていましたら、まさにこれでした。本当に立てずに、それでも必死になって柱につかまり、壁に寄り掛かり、壁伝いによろやく外に出た3時6分の地震です。これはまずいと、若輩者の私が思った以上に、年長者の皆さんはただ事ではないと感じておりました。2時46分の時には、何とか皆、地域の人も外に出て、宮城県沖地震という30年の内に必ず来ると言われている地震がありますので、46分の時には、皆外に出て、宮城県沖地震はこれで終わりだ、家をもう建てても良いかな等と、実はこんな感じでした。

我々は地震の対策もしておりましたので、地震でつぶれる等ということは、女川ではありませんでした。地震だけならよかったです。3時6分の地震でこれはさすがにまずい、逃げるぞと、皆逃げ始めました。そして皆散り散りバラバラ、逃げることから始まりました。それでもやはり、残っている人は残っておりました。

そして3時26分、津波が海から押し寄せるわけです。10分程度で20mの高さまで達しております。

商工会は1階が駐車場、2階が事務室、3階が青年部室・女性部室、4階が100名以上入る大会議室があったのですが、その4階



の掛け時計が 3 時 31 分頃で止まっております。26 分の津波、5 分で 4 階まで飲み込んでいます。なぜ 3 時 26 分が分るかといいますと、私の車が流された時間だからです。実は私は、軽自動車を買ったばかりでした。商工会館は津波の避難所に指定されておりましたが、私はそのことを知らず、確かに我々も危機管理の薄さはあったのですが、そのことを聞きましたので、誰かが逃げて来るかも知れないと、男性職員だけを残し、女性職員を税理士さんをお願いし、町立病院という高い所の病院に逃がしました。しかしローンを 1 度しか払っていない車だけは、高い所に逃がしても良いのではないかと、車を 1 階の駐車場から動かしました。1 回目の地震で既に 60cm 程地盤は下がっておりましたので、渡し板をかけてゆっくりバックをし、道路にでたのですが、ギアをドライブに入れて走ろうとした瞬間、道路の側溝から水が吹き上げてくるのです。私は車におりましたので、海岸の状況は全くわからなかったのですが、本当に見事に側溝の穴から水が吹き、驚いていると、今度はすぐにその側溝のコンクリが浮かされて、前に流れてきたのです。もう車は駄目だと思い、すぐに車から降りました。あのまま 5m でも走ったら、私は流されたと思いますが、そこからやはり奇跡が始まっていくのです。降りた瞬間、車はイモビライザーが働き、ハザードを点け、クラクションを鳴らしながら流れ、するともう見渡す限り水となりました。事務所にはどんどんと人が来ておまして、非常階段で事務所に戻り、とにかくパソコンがなければまずいと、水が事務所に侵入しながらもパソコンを持っておりました。津波は外海から、マリンパル女川に水が訪れ、引いてみると写真のような状況でした。観光栈橋も飲まれました。

先ほどから町立病院のお話を少ししておりましたが、ここは海拔 16m にある病院です。税理士さんと女性職員が向かったこちらも避難所になっておりましたが、結果この 1 階まで水が入りました。恐らく 20m くらい来たのではないのでしょうか。

押してくる波は本当に怖かったです。私は車を流され、意気消沈しながら、しかしパソコンを持って 4 階の会議室に上がりました。正直な所、防災無線は最初「大津波警報 3m」と言いました。そうしているうちに「大津波警報 6m、逃げろ」と商工会の前で警察に言われ、怒られました。しかしそんなことを言われてもここは避難場所であるし、6m だと 2 階までやられてしまうなといった感じでした。そこで我々は情報が止まっているのです。皆さんの所では、大津波警報 10m 以上と情報修正があったようで、女川でも車に乗っていた人はそれを聞いたと言う人もおりますが、車も流され、何も情報を得るものがなかったのです。6m という頭でした。先ほどのビデオを撮っていた人が、「10m あるじゃないか」と言っていたのは、このあらわれです。私もせっかく持ってきたパソコンを 4 階に投

げ、このままではまずいと屋上に上がりました。向かいに 3 階建ての金物屋さんがあったのですが、すっぽりと飲まれており、これは 10m ではない、もう駄目だ、どうすると考えた時に、そこにあった受水槽に上るしかない、もうこれしかない、もう一人の職員と死に直面した話を致しました。

我々商工会の理事で、お茶屋さんをしている小野寺さんは、3 階建ての立派なお茶屋さんだったのですが、3 階ごと流されている光景です。彼はここで、我々の会長に「今までありがとう...」とメールを打っていたというのです。人間、切羽詰った時にやれることとは、笑いができるほど滑稽なものです。死に直面した本人は、それを考えたということです。私もあとからお話しますが、子供のことを考えた、それだけです。とる行動も本当に陳腐と言いますか、滑稽です。しかし本人にしてみれば、それが今精一杯できることなのです。女川的前景は綺麗な港町でしたが、波が引いてみると、何もなくなっていました。

引き波ですが、ありとあらゆるものを巻き込んでいきました。海と陸の境界線には、ちょうど 8m 位の滝壺ができました。水が引くと、岸壁のパイルの足が全部見えています。そして白波を立てて次の波が来ているのです。この後ろには山を隠す波が来ました。私も受水槽から見ており、「ああ、次は終わったね。山が隠れるものが来たよ」と諦めました。しかし幸い、来てみると 4 階をのんだだけだったので、一番追い詰められたものは、学術的には 2 波ということになるのだと思います。そして、私が見た山が隠れたという波は 3 波になるのだと思います。一晚、事務所に取り残されておりましたので 20 数波まで数えましたが、もう後は止めようということで、止めました。そして最も高い津波が押し寄せたたった 40 分~50 分の間に、沢山の雪が降りました。私は、上は大雪、下は水だらけと、何で震えているのかわからない状況でした。

震災への備えとして、経験して思うことは、とにかく「逃げる・生きる」ということです。逃げれば生きられるのは当たり前と思うかもしれませんが、今回、我々に商工会が避難所だと言った奥様達がおりました。彼女たちは、信仰があったのかはわかりませんが、13m 程度の山にある、ある宗教の建物に、我々に忠告しながら逃げていきました。ここで大丈夫だと思ったという話らしいのです。もう 5m 程あがると、第 2 小学校というギリギリセーフだった学校があるのですが、やはり逃げるのであれば、山が頂上までであるのであれば、頂上まで逃げなさい、そこまで来たらまた考えなければなりません、自分勝手な思い込みで大丈夫だと思うことはやめた方が良いでしょうと思います。逃げられるのであれば、とにかく逃げるということです。津波ばかりが災害ではなく、火事や地震そのものであったりすると思います。皆さん従業員も抱えておられることと思いますので、

やはり職場では、あまり良いシミュレーションではありませんが、実際我々のように経験した者もおりますので、「たれば」ですが、こんな時にはどうしようと、Q&Aのようなことを考えておくべきだと思います。そしてそれに伴う訓練を多少はしておくこと、そして家庭に帰れば当然ご家族もいるでしょうから、家だったらどうだろう、職場だったらどうだろう、人を使っている立場であったらどうだろうと、立派な分厚いものを作れとは言いませんが、危機マニュアルは必要であると思います。「逃げる・生きる」位のもので、そのためにはどうする、何を持っていくのか等、最低限ルールがあった方が良いでしょうと思います。

備えということですが、必要であったものはやはり、乾電池式ラジオでした。それから懐中電灯、そして携帯の充電器です。今私はどこへ行くにも、この3点は必ず持ち歩いております。そして水、無くなればリュックに水を挿して歩いています。困ったことは、そこなのです。食べ物等は、食べなければ食べないなりに3~4日はなんとかなります。そして工具等色々ありますが、工具等はみなさん車に積んであるものがありました。その車を流されると何もなくなってしまいました。しかし幸い、色々なものが流れ着いてありましたので、正直な所道具では困りませんでした。身分証明、免許があればそれでよいのですが、高齢の方などは免許もなく、それで銀行に行くに保険証を持って行っても駄目なのです。信じてはいるのですが、拾ってきたものではないのかといった感じで、銀行は受け付けてくれません。顔写真がついているものがある人は良いのですが、無い人は住民票を取ってきて下さいと銀行から言われます。役場が流されているのに何を言っているのだろうと思いますが、やはり手続き上、どうしてもこんな理不尽があったりします。住基カード等、普段はあまりつかいませんが、持っているの良いのかなと思います。

そして銀行カード、通帳やハンコが流されていても、カードと免許証があれば、比較的すぐ銀行は手続きをしてくれました。やはり皆さん財布を持って逃げるので、カードや免許を持っている人は多かったです。

衛生用品、女性の方はやはり生理用品が無くて大変だった、辛かったと言っておりました。その他にも必要であった、あれば良かったといったものがありますが、パソコンのデータ、パソコンは失っても何でも良いのですが、やはり中身のデータ、皆さんバックアップ等きちんとされていらっしゃると思いますが、私自身もなぜUSB一つポケットに入れられなかったのかと後悔致しました。それだけ動揺しているということです。日頃からこういうことに気を付けていなければならぬということです。

そして思い出の品、常に持って歩けとは言いませんが、これだけはいくらお金があっても戻せま

せんので、例えば今写真でしたら、スキャンをかけてデータに保存し、バックアップをとる等といったことをしておくと思います。全部流されてしまって、かわいそうな葬式を数件見ました。写真がないから遺影もない、まだ遺体も上がらない、当然家も流されて遺品すらない、空のままの骨壺にただ法名だけついたといった葬式を見ると、本当に辛く悲しいです。日頃から準備が難しいものもあるかもしれませんが、万が一の時にはパッと持ち出せるような、そういった工夫は必要であると思います。しかしだからといって、準備していたものを取りに戻るといったことは止めた方が良いでしょうと思います。今回、せっかく安全圏まで逃げたのに、貴重品を取りに、または親切心で戻ってそのまま帰らない人が沢山おりました。これは大事なことなんでしょうが、やはり自分の身は自分で守ることが最初ですので、生きてからこそ初めて行政の支援があったり、絆が生きるものであって、やはり初めに我が身は我が身で守らなければならず、だからこそ逃げるということを考えて欲しいということです。貴重なものだからといってあまり戻らない方が良いでしょうという教訓です。

そしてインフラが回復するまでですが、家が流されなかった浦宿地区という所ですら、これだけの日数がかかっております。インターネットは3ヶ月以上かかっております。電話・電気・水の有り難さが今回良くわかりました。

その時1ですが、これが商工会館でした。ここから車で走ろうとしましたら、写真ではみな側溝が抜けておりますが、本当に危機一髪でした。そして事務所の中ですが、物が残っていると思いがちですが、これは全て他人の家のもので、自分たちの物は流され、人の家のものである訳です。



やましい気持ちは無いのですが、全て開けてみました。何故開けるかと言いますと、タンスには写真やへその緒等入っている場合があり、やはりこれも思い出の品であるので、こうしたものは返してあげたいと思い、ぐちゃぐちゃになっていてもないよりは良いだろうと、本当に親切心で行っておりました。

その時2、これは3月12日の朝です。私たちはこの会館に1晩取り残されて、次の朝、腰くらいの津波しか訪れなくなったので、時間をみて脱出しました。給水塔からはこの全光景を見ておりましたが、



いざ地盤面に立って振り返った時には何もなくなった涙ができました。本当に無残な光景でした。しかしそんな中生き残って、まず幸いであったといった感じで

した。そして驚愕な光景でした。

昨年6月の写真ですが、ちょっとした台風が来るとまだ町がこんなにも沈みます。防波堤も切れましたので、ちょっとした風が吹くと、まだまだ水が来ます。これで復旧・復興、土盛りとは論外であると思います。土を盛ってもこの通り水がくればまた引かれます。2年かかってまだこんな状態です。

冒頭にもあった写真ですが、海から実に3km一発で失いました。海から100m弱の所にあった商工会の事務所、そしてここくらいしか水に浸からず残ったところはありませんでした。

九死に一生ということで、私の話になりますが、屋上にこのような受水槽があります。写真の彼が



170cm位だと言っておりましたので、受水槽はゆうに6m位はあるだろうと思います。そして当日はこんな感じでした。今こうして冗談を語っていますが、覚悟はしていたのです。

その時4の写真ですが、あの受水槽が本当にこんなです。ここに辛うじて、しかし幸いこの状態で水が止まって、引き波が始まるのです。この状態での引き波も怖かったです。ガタガタと凄く揺れますし、手を離せばそのまま落ちていきますし、覚悟はしておりましたが、死にもの狂いといった感じです。こうした中で色々な人を見ました。家ごと流さ行く人、即死でしょうか、そのままグルグル回りながら流される人、物につかまって流される人、我々ももう駄目だと思ったのですが、やはりそうやって流れる人に、本当に心から「頑張れ」と、物につかまってあの滝壺のような所に、今さらわれ行く人が言うのです。この光景で、です。絶叫です。泣きながら「頑張れ」と、「お前も頑張れ」と、そうした光景をここで見ておりました。当の自分たちも、次は我々だと思いながら、人間性悪説、性善説色々あるのですが、人というのは皆良い人なのだと思います。お陰様で皆さんとこのように会ったり、本当にこのような繋がりが出来るということは、人は根から悪いのではないのだろうかと、心から頑張れと、そう叫んだのはこの時初めてでした。

宮城ではメジャーな「河北新報」に、私の記事が載りました。ここにも私の心境が書いてありますが、私の心境といえますのは、あの状態でしたの

で死は覚悟致しました。受水槽4つ角に男4人、来世で会いましょうと、もう絶望感を通り越して覚悟をしているだけでした。吹っ切れてはおりましたが、でも私の場合、当時3歳と1歳のサワとアヤミ、まだ下の子はようやくおむつをはいて、ちょちょこと歩けるくらいになった所で、言葉は話せず、もごもご話すくらいです。上の子は3歳でしっかりはしておりましたが、けれども3歳は3歳です。私が最後に思ったことというのは、もうこの子供たちに会えなくなるのだ、その一心だけでした。自分の死はもう覚悟をし、諦めました。辺りの人が流され、町も一撃で壊滅させるほどの物の真っ只中にいるので、もう諦めました。しかし本当に最後まで思ったのは子供たちのことです。もう会えない、もう触れられないと思いました。その中で、まず事務所は丈夫で残りそうだったので、受水槽のタンクの所にあったワイヤーで吊るためか何かのリングに流される前にネクタイを結びました。私は黒いネクタイしかしないのですが、恐らく家内は原発の方で働いていたので生きているだろうと思い、商工会に黒いタイ、しかも汚れが擦り切れるまで毎日同じものをしておりましたので、家内は見れば私のだと分るのです。商工会が残るか残らないかは別として、それを子供たちに残してやりたかったのです。先ほど屋根でメールを打っていたというのと同じ心境です。やれることと言えば、これを子供たちに残さなければということ、お父さんが最後までここにいたということ、お父さんの最後がここだったということ、3歳と1歳の子供たちです。まだ何もわからないでしょうから、それを残してやるということしか考えられませんでした。

ネクタイをそこに残すのは良いのですが、22年の4月に女川に赴任をしまして、そこで前任者に追いつけ追いつけ越せで、その頃から土曜、日曜もなく働いておりました。しかし我々の仕事とは1シーズンを通すと、ある程度のリズムが見えますので、今年度を頑張れば次年度が楽になると一生懸命頑張りました。そして1年間かけて改革もしながら進めてきて、色々なものも作りあげて、3月11日に全て持っていかれてしまいました。3月11日と言いますと確定申告の真っ只中です。商工会でも最も繁忙の時期、3月15日の手前ですから、3月11日の金曜日、12日、13日で申告、土日にやれば15日の申告に100何十件出せるかといった、その瀬戸際でしたから、当然夜中にしか家には帰れませんでした。本当に子供たちが鼻いびきをかいているときに家に帰り、そして私も疲れていたもので、子供たちが保育園に行く時ようやく起きる、そんな状態が1年続いておりました。いつも寝顔に、サワが私の隣で寝ているのですが、「お父さんが来年の連休に動物園に連れて行くからな」と、そんなことがずっと続いておりました。3月11日の朝も、子供たちはカーカー言いながら、家内の作った朝食を食べていたのは聞こえていた

のでわかっていましたが、私も夜 2 時、3 時が普通で、もう少し寝かせて欲しいと寝ているうちに、子供たちも保育園に行き、家内は仕事に行ったのです。そんな感じで子供たちは行ってしまい、私も遅刻ギリギリに事務所に行き、常に申告をして、まさかその午後にあんな死に目に会わされるとは思ってもおりませんでした。なんで今日、子供たちがキャーキャー言っているうちに、朝「おはよう」と、一緒にご飯を食べ、歯を磨いてあげて、保育園の遊び着を着せ、黄色い帽子をかぶせ、「いってらっしゃい」と、何故今朝言えなかったのかと思いました。送り出す前に「いってらっしゃい」とぎゅっと抱きしめてあげ、ほっぺになんでチューの一つもしてやれなかったのかと、その後悔でした。そんな後悔はもう二度とたくはありませんし、当然、なければもう良いのです。

いつ何時、何が訪れるかがわからないという中なので、皆さん日々、一日一日を大切に、その意義を大切に生きて欲しいと思います。私自身、自分の死よりも、もう子供に会えないというその後悔が先に立ちました。皆さんが今この場で何か起きた時、真っ先に思い浮かぶことは何でしょうか？ 家族でしょうか？ 友達でしょうか？ 趣味でしょうか？ やはりその思うことが一番大切なことです。それも大切にしながら、忙しいお仕事でしようが、大切に、家族も大切に、触れ合う時は触れ合う、そうやって日々大切に生きて欲しいと思います



ニコニコボックス

田中滋晃様(狭山 RC)

本日、3RC合同例会を企画頂きまして、ありがとうございました。また、遠路卓話のため来て頂きました、青山様よろしくお願ひ致します。

田口伸一様(狭山 RC)

狭山中央RCの皆様、講師の青山貴博様本日は大変お世話になります。よろしくお願ひ致します。

佐藤信男様(狭山 RC)

3RC合同例会おめでとうございます。常に仲良くしたいものです。

田島 貴様(狭山 RC)

本日はお世話になります。

西澤長次様、小川正幸様(新狭山 RC)

本日はお世話になります。よろしくお願ひ致します。

坂野好邦様、井花富男様(新狭山 RC)

若松会長様、稲見幹事様、今日はお世話になります。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

伊藤宣明様(新狭山 RC)

本日はお世話になります。大宮に行くため途中退席しますが、よろしくお願ひします。

田口孝志様、渡辺 進様(新狭山 RC)

本日はお世話になります。

石田 嵩様(新狭山 RC)

今週の木・金、14・15日に当社恒例の「コースOA・環境・防災フェア」を開催致します。ご都合が付きましたら、参加を！本日は、青山様、遠方より卓話ありがとうございます。よろしくお願ひします。狭山RC、新狭山RCの皆様、本日はご協力ありがとうございます。

稲見君

女川商工会、青山貴博様、今日のお話楽しみです。よろしくお願ひします。狭山RC、新狭山RCの皆様、ようこそお出で下さいました。今日一日よろしくお願ひします。

江原君

宮城県女川町商工会・経営指導員副参事青山貴博様、本日はお忙しい中、遠路はるばる私共のためにお出で下さいまして本当にありがとうございます。本日は卓話、以前より楽しみにしておりました。何卒よろしくお願ひ申し上げます。また、狭山RC、新狭山RCの皆様、ようこそお出で下さいました。本日はよろしくお願ひ致します。

竇積君 尚寿会は震災後の帰宅困難者、患者受け入れ、職場提供、義援金、ボランティア活動を通して、東北が復興するまで応援し続けます。

益子君 青山様、卓話よろしくお願ひします。

栗原(憲)君 青山貴博様、ようこそお出で下さいました。卓話よろしくお願ひ致します。

栗原(成)君 女川町の大震災に多大なる支援を頂きありがとうございます。また、青山様本日の卓話感動致しました。

中谷君 女川町商工会副参事・青山様、昨年11月の親睦旅行では大変お世話になりました。本日は、狭山までお出で頂きありがとうございます。東日本大震災の体験談よろしくお願ひします。

小幡君 青山貴博様、遠くより当クラブへお出で頂きありがとうございます。卓話よろしくお願ひします。

佐藤君 女川町商工会の青山様、6時間もかけて狭山に来て頂き、大変ご苦労様です。震災の貴重な体験談、よろしくお願ひ致します。

高田君 青山様、本日はありがとうございます。

山室君 青山様、本日卓話よろしくお願ひします。狭山R、新狭山RCの皆様、本日はよろしくお願ひします。

狭山中央RC美女軍団

女川町商工会の青山様、ようこそお出で頂きました。いつもより念入りに化粧をして参りました。大変な経験をなされて想像もつきません。まだまだ大変だとは思いますが、今日は本当にありがとうございます。